

東京2020大会「選手村 ビレッジプラザ」に下川町産 カラマツ材が使われました！

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、日本全体で大会を盛り上げるとともに、環境に配慮した持続可能な大会を実現するために、国産木材を使用し「選手村ビレッジプラザ」(※1)を建築し、大会で使われた木材を後世に伝える遺産(レガシー)として各地で活用する「日本の木材活用リレー」(※2)みんなで作る選手村ビレッジプラザ「プロジェクト」を推進しています。

下川町は、町内林産業関係事業者(※2)から木材提供のご協力を得て、下川町産カラマツ集成材(FSC森林認証)を約6㎡(192本)提供しました。
この度「選手村ビレッジ

プラザ」が概ね完成したことから、1月29日から31日の3日間にかけて内覧会が開催されました。29日の式典には谷町長が、30日には町内林産業関係事業者が参加されました。

町では、この取組みを通じて森林・林業のまち下川町の発信と下川町産FSC認証材の普及啓発、公共施設を中心に提供した木材の後利用を検討して参ります。

■お問い合わせ 森林商工振興課

☎ 4-2511 内線 243

☆ 4-2511 112



「選手村ビレッジプラザA 3棟内観」



「下川町産カラマツ集成材(FSC森林認証)A 3棟床材」

※1 選手村ビレッジプラザの概要

延床面積約6,000㎡の木造・平屋建て(東京都中央区晴海四丁目)で、出場チーム歓迎式典、カフェや雑貨店等の店舗、メディアセンター等が配置され、選手やその家族、メディア等の関係者が訪れる施設。後利用のしやすさを考慮した仮設建築物。

※2 木材提供協力町内林産業関係事業者

協同組合ウッディしもかわ、下川町森林組合、下川フォレストファミリー株式会社、下川林産協同組合、三津橋農産株式会社、山本組木材株式会社 計6事業者